

田文書告

コレヤオモテス

昨日、農校舎内のハンガーストライキの場に於て行なわれた大衆団交を報告する。そこに於て共に確認し合った事は、現在農学部の学問が体制に従属する形で進められる教育にすりかえられ、又その従属形態をより効果的に運営する為に学生を被管理者とする管理者=教授会、理事会が在存しているという事であった。

学問そのものは本来的に批判的であるものであり、批判的であるが故に反体制的なるものとなる事をも確認し合い、「大学、少なくとも農学部は安保粉碎へそして中教審答申粉碎に打つて立てる砦として位置付けた事を絶対に忘れてはならぬ」だ。

そして体制の教育、とりわけ产学共同から教育産業そのものへと移し大学を企業の研究機関とする「開かれた大学」に対して徹底的に抗してゆかねばならないことを確認し合った。

ここに至って我々は戦うその内容を明らかにした。それは体操の利益が既に既定されている授業をただ従順に受け付けてパスポートを戴くのではなく、自分自身の学問を追求してゆくいろいろな作業の中で、最も問題とする点を学んでやこうとする所謂自主講座である。一例えば、農場実習にてもあの理想的な農場で何ら農業問題を語る事は出来ない。農業の現実を知るために必ず実習こそ農家にはいってゆく事とりわけその問題が集積していく三種場所をその実習の場と設定してゆく事を考えるのである。

然しながら自主講座とは現在の「教育」の不備を補うようなものであっては決してならない。むろん現在の「授業」がすべて自主講座となる事によって学問追求をその永久課題とする自主講座がその存在価値を獲得し得るのである。この運動を全学的に拡大し学生だけのものから全ての人々のものへと拡大してゆくのがむち「反大学」なのである。

我々は自らの学問を追求してゆく為にこの運動をいがなる状況の下においても不断に進めてゆく事を忘れてはならない。

教授会はこの構想に対し賛同するとした。

しかししながら「もっと具体的にして呉せ給え」「単位はどうなるのか」「君達が最後までやるなら後押しそよ」と言った如くに自己の主体を全く喪失してしまった責任逃れする思考が少しあつて、それが教授会の態度は今後も追求してゆくべきものである。またその他、ハンガーストライキと決行した諸君の質問に対する回答は「明日教授会を開くからそれまで解答は待つことに至れまでは何とも答えられない」と何時ものように進げていったのである。

そこには至って 7日(土)教授会・理事会団交 1時20分を設置した。

団交後、我々は中教審答申粉碎、農再編斗争勝利に向けて

農学部斗争委員会を結成した。

農学部を安保粉碎の砦とすると明言した教授会と共に我々は自らの学問を追求してゆきたい、そして更なる意志一致を求めて7日(土)の教授会・理事会との団交に参加しようではないか、そして全ての学友は農斗委へ結集せよ。

コレヤオモテス